

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立東小橋小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は「ひとりひとりを大切に、豊かな心を育てる」を学校教育目標に、～人にやさしく、元気な『東小橋っ子』の育成～をめざす子ども像に掲げて、日々の教育活動に取り組んでいる。

1. 自らすすんで学習する子どもの育成

学力・体力の向上については、児童の実態に即して教員の授業力を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を積み重ね、保護者や地域と連携を密に図りながら、取り組んできた。新型コロナウイルス感染拡大の中で、学年の実態や感染状況に応じて双方向によるオンライン学習を進めることができた経験を活かし、一人一台端末を利用した心の天気やデジタルドリルの効果的な活用を進めていきたい。

2. 仲間を大切にする子どもの育成

安全・安心の実現においては、地域の方々に子どもたちを知ってもらうことで身の安全にもつながる「元気なあいさつ」と自ら安全・安心な生活が送れることをめざした「防犯・防災」の指導を続けている。その結果、「すすんでしっかりとあいさつをしています」では、校内アンケートにおいて令和3年度末は90%以上の児童が「あいさつをしている」という肯定的回答をした。引き続き、「元気なあいさつ」が聞こえてくる学校づくりを目指して取り組んでいきたい。

3. 人の気持ちを考えて行動できる子どもの育成

常に自分自身と友達も含めて人の気持ちを考え、配慮しながら行動できるように指導をすすめ、「友達と仲よくしている」児童の割合をさらに増やしていきたい。

4. 最後までやりとおす子どもの育成

何事にも、ものごとを最後までやりとおす粘り強さとあきらめないという強い意志を育てていけるように指導を工夫していく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」(1～4年)「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」(5, 6年)の肯定的な回答を95%以上にする。

中期目標

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を62%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を95%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）。
- ・令和7年度において、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%以上にする。
- ・令和7年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を95%とする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」（1～4年）「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」（5，6年）の肯定的な回答を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を62%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.3%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92.2%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を95%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）。
- ・令和7年度において、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%以上にする。
- ・令和7年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を100%にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

【その他】

- ・令和8年度の複式学級設置に向け研究・研修を進める。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は、中期目標の最終年度として「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」の3つの最重要目標の達成に向け、全校体制で教育活動の充実に努めてきた。

【中期目標期間（4年間）の成果】

4年間にわたる継続的な取組の結果、それぞれの項目の定着が進み、数値が向上したことで概ねの目標を達成することができた。特に「安全・安心な教育の推進」においては、いじめアンケートの定期実施や道徳授業の積み重ねにより、いじめ防止に対する高い意識を維持した（肯定的な回答96%）。また、「挨拶運動」も学年ごとに様々な工夫を凝らした活動を行い、91%の児童が肯定的に回答するなど、豊かな心の育成に確実な成果が見られた。「学びを支える教育環境」でも、学習者用端末の活用（79.8%）や、教職員の校内研修の充実度100%を達成するなど、ICTを基盤とした教育DXと教員の資質向上が大きく進んだ。

【今後の課題と分析】

一方で、「未来を切り拓く学力・体力の向上」に関する大阪市学力経年調査のアンケート項目において、一部課題が明確になった。「話し合い活動を通じて考えを深める児童」の割合（58.5%）や、「運動を最も好きと回答する児童」の割合（66%）が目標値に届かなかった。これらは、学年が上がるにつれて自己評価が厳しくなる傾向や、指導の系統性に課題があるためと分析している。また、読書についても肯定的な回答が69.3%にとどまっており、高学年における読書意欲の維持が次期目標への継続課題となった。

【次期中期目標に向けた展望】

本中期目標期間で得られた成果を土台としつつ、次年度からは低学年からの系統的な「話し合い活動」の指導を強化を目指し計画的に研修を実施し教員の授業力向上を図る。体育授業においても、スモールステップの導入により児童が「できた」と実感できる授業改善を全校で推進する。また、読書の定義を広げ、調べ学習や読み聞かせなど多様な形態で本に親しむ機会を創出していく。最終年度の振り返りを踏まえ、次期中期目標においても学校教育目標の達成に向け、全教職員が一丸となって取り組んでいく。

(様式2)

大阪市立東小橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。令和7年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」(1～4年)「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」(5, 6年)の肯定的な回答を95%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1-1 いじめへの対応】</p> <p>いじめのアンケート調査を定期的実施し、当該児童からの訴えを的確に聞き取り、課題の解決を図る。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">いじめのアンケート調査を年間3回以上行う。認知したいじめ事案については、100%の解決を図る。「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」を設定し、いじめ防止の意識を高めるための特別活動や道徳授業を年2回以上実施する。	
<p>取組内容② 【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】</p> <p>保護者との連絡を密にしながら、区役所(地域子育て支援)やスクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)、こども相談センターとの連携を図り、問題事象の解決を図る。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">事象が起きた時の指導内容や保護者対応等について、事象発生時は毎回記録する。毎月の生活指導部で今後の指導・支援についての教職員間の共通理解を図る。区役所(地域子育て支援)や子ども相談センターと連携する。	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】</p> <p>月別生活目標や、児童会の取り組みに「あいさつ」を位置づけ、学校の重点目標として指導を図り、あいさつをすすんでしっかりできる子を育てる。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">年間2回以上のあいさつに関わる取組を実施する。	

<p>取組内容④【基本的な方向 1-6 安全教育の推進】 情報モラル教育を実施し、児童自身が適切に情報機器を使用できるようにする。</p>	A
<p>指標 ・児童の発達段階にあわせた情報モラル教育を年1回は実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 2-2 キャリア教育の充実 2-3 人権を尊重する教育の推進】 芸術鑑賞会・体験学習・校外活動を行い、豊かな心の育成を図る。</p>	
<p>指標 ・全学年、年1回以上体験学習を行う。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・4年間その都度取組内容を精選し、指標の達成に向けて取り組んできた結果、年度当初に設定した目標数値を上回ることができた。 ・いじめアンケートは4回、いじめ・いのちについての授業は年2回行った結果、いじめについて考えることができたように考えられる。 ・年3回のあいさつ週間を取り入れた結果、進んで挨拶をしていると肯定的に答えた児童は91%と高かったように感じるが、最も肯定している割合は70%であり、させられているという意識の児童も一定数いると考えられる。 ・各学年で情報モラル教育を年1回以上行っている。しかし、「スマホの危険性や適切な使い方について理解している」と最も肯定的に答えた割合は67%であった。情報モラル教育が子どもたちの実態に合ったものになっていない可能性もあるのではないかと考えられる。 ・体験学習が楽しいと答える児童の割合は95%と非常に高かった。これは学年の実態に合わせた体験学習を各担任が設定したからであると考えられる。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめは、どんなことがあっても絶対にいけないこと」の質問は100%肯定的であってほしい。そのためにも、継続して取組を続けていく必要があると考える。 ・子どもたちが進んで挨拶できるよう、今年度行った取組内容を再度見直し、より効果が高いう取組を行っていく必要があると考える。 ・高学年になるにしたがって情報モラル教育が大切になる。次年度は視聴覚担当や各学年と連携し、その学年の実態に合った内容を行うようにする必要がある。 	

大阪市立東小橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を62%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.3%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92.2%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を88%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。 令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。 年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を95%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 3-1 就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進】 就学前教育施設と連携し、円滑な教育の接続を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・就学前施設と連携した取り組みを年3回以上実施する。</p>	A
<p>取組内容② 【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】 学習のあり方を質的に改善し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を進める。</p> <hr/> <p>指標 ・年に1回程度、「話し合い活動の深め方・広げ方」に関する研修会を実施する。 ・年度末の校内アンケートにおいて、研修会等で学んだ手法を活かした授業を日々実践していると回答する教員を100%にする。</p>	A

<p>取組内容③【基本的な方向 4-3 英語教育の強化】 「小学校低学年からの英語教育」、外国語活動、外国語科における、対話的な学びを通して自分の考えを広げ深める子どもを育てる。</p>	
<p>指標 ・外国語科、外国語活動の各単元で、児童が以前の自分と比べ「できる」と感じられる評価活動を実施する。 ・全学級で、1回15分×週2回の「小学校低学年からの英語教育」を実施する。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 体育科の授業において児童が「できるようになった」と達成感を感じる授業を実施する。</p>	
<p>指標 ・校内児童アンケートの「音楽や体育などいろいろなことに挑戦し、できるようになってきている」の項目において肯定的な回答を85%以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】 基本的な生活習慣の指導を行い、児童の健やかな成長を図る。</p>	
<p>指標 ・基本的な生活習慣に係る家庭への啓発を、ほけんだよりで年に11回以上行う。 ・給食週間に健康委員会による集会を開催する。 ・食育について、家庭への啓発を食育だよりで年に11回以上行う。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設と連携した取り組みは、「水遊び」「秋みつけ」「秋遊び」「正月遊び」「公園そうじ」「プール交流」「ドッジボール」「運動会」の8回実施し、目標の年3回を大きく上回った。昨年度よりも1回増えているのでより連携が進んだ ・「話し合い活動の深め方・広げ方」に関する研修会を4月に実施した。また、年度末の校内アンケートにおいて、研修会等で学んだ手法を活かした授業を日々実践していると回答した教員は100%であった。今年度は研修会を48回実施した。ほとんどの研修は自由参加であったが、教職員はほぼ全ての研修に積極的に参加していたことから、上記のような結果となったと考えられる。 ・外国語科、外国語活動の各単元で、児童が以前の自分と比べ「できる」と感じられる評価活動を毎学期「ふりかえりシート」として実施した。令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94.3%だったことを考えると、朝の15分の英語活動も子どもたちは楽しみながら学習していたと考えられる。 ・校内児童アンケートの「音楽や体育などいろいろなことに挑戦し、できるようになってきている」の項目において肯定的な回答は95%以上となった。しかし、令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は66%だったことから、アンケートをとるタイミングの体育単元の影響や、「最も肯定的」という文言で結果が下がってしまうことが原因だと考えられる。 ・給食週間に健康委員会による集会を開催した。また、基本的な生活習慣に係る家庭への啓発をほけんだよりで、食育についての家庭への啓発を食育だよりで、共に年12回発行した。目標回数を共にこえることができた。 	

◎以上のように年度目標の達成に向けた取組内容を行ったが、大阪市が定めた小学校学力経年調査におけるアンケート6項目のうち4項目は目標を達成できなかった。そのため、総合評価をBとした。

次年度への改善点

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目は3年26.7%、4年50%、5年71.4%、6年85.7%と中学年が低かったので、「話し合い活動の深め方・広げ方」を低学年から系統的に考える必要がある。来年度も校内で研修を行い、教員で共通理解して授業に生かせるようにする。
- ・「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目では最も肯定的に答える割合が3年26.7%、4年100%、5年64.3%、6年85.7%となり、目標の88%に4年生以外達成できなかった。まず、肯定的に捉えていない児童の理由を把握する。原因は「できない」「怖い」「経験がない」等多岐にわたると考えられが、「できない」なら『小さなできる』を積み重ねる。「怖い」なら『怖くない場』を用意する。「経験がない」なら『感覚づくりの運動』を取り入れる等、授業改善によって、運動を否定的に捉えている児童の割合が減るようにする。そのために、校内で研修を行う。

(様式2)

大阪市立東小橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)。令和7年度において、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%以上にする。令和7年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を100%にする。令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 学習者用端末(一人一台タブレットPC)のデジタルツール等を各学年の実態に応じて活用する。</p> <p>指標 ・学習者用端末を活用した家庭学習を、月1回(年平均)以上実施する。 (ただし、1年生は2学期より上記指標の対象とする)</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7-1働き方改革の推進】 全学年で副担任制を実施する。</p> <p>指標 ・年度末の校内児童アンケートにおいて、「授業がわかる」の項目に対して否定的に答える児童の割合を5%以下にする。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向7-2教員の資質向上・人材の確保】 各教員のニーズ・課題に沿った研修を計画的に実施する。</p> <p>指標 ・校内研修を年間10回以上行う。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向8-3学校図書館の活性化】 読書タイムやブックバックを活用し、読書環境を整えていく。</p> <p>指標 ・年度末の校内調査において、「学校図書館やその蔵書を活用した授業を学期に数回程度行った」と回答する教員の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

4年間の継続した取り組みを続けたことで、それぞれの項目の定着が進み、数値が向上したことで概ね達成することができている。

小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目では、肯定的回答が平均 69.3%にとどまっている。出前図書館や図書館開放、学校司書による読み聞かせなどさまざまな取り組みを行っているが、高学年になるほど肯定的回答が低下する傾向が見られる。「読書」を「物語を読むこと」、「好き」を「たくさん読んでいる」など、児童によってとらえ方が異なることで限定的な回答になっている可能性も考えられる。

次年度への改善点

学校図書館の図鑑などを用いた学級での調べ学習なども読書に含まれること、本の内容を文字で読むだけでなく読み聞かせてもらったり、図鑑などの写真や絵を楽しんだりすることも読んでいることになるなど、児童が広い意味で読書をとらえられるようにしていく必要がある。